

昭和14年3月1日（水）

曇り、秋永鶴居局長臨局。午前十時半頃と覚えし。国債栄町に五百円一枚残余ある筈、一つ松の状況不明云々。当局は全部売切れの好況、猶逋信局より百円三枚送付方電請せり。秋永氏に為替貯金事故徴収金、二ヶ月分、60銭支出せり。本局監視員来局。昨年三月十日、代引き小包着否取調方申出に対し、余調査せしも到着の形迹なし。朝日新聞代金を請求、無断投入のもの故、永江氏支払わず。茶話会守谷氏の送別会の意味にて70銭を全員にて食べ、50銭を守谷氏に土産に遣ることとし、是永氏に適宜菓子を見つくらわしめ、六時近く開会。六時半飯る。今日は風呂休み。夕方より降雨、曇混じりに変ず。その割合に寒さを感じず。十時寢床。

昭和14年3月2日（木）

快晴、栄町小野局長、国債10円20枚を余せる由にて、加勢方依頼に来る。二時半頃より一時間程居る。余本局集配時刻改正に対し、毛筆にて見易く作成し居たる時とて、御相手になる為、手違えを来たせり。此の朝、道路泥濘の嫌いありしも短靴にて出局。午後三時三十五分、内親王様御分娩の臨時ニュースあり。新規風呂沸き、余先ず入浴、両児を入るる先例の如し。

昭和14年3月3日（金）

曇り、次第に降雨。和傘預け置きたる儘とて、夫れを翳して飯る。野口氏は永江氏より借用、飯りに味噌、余の注文分を求めて帰る。守谷氏辞表提出に付き夫々手続きす。此日夜に入り、雨倍に甚だし。二日目の風呂沸き入浴。寝る前も再び入浴の為、十時を過ぐる場合多し。

昭和14年3月4日（土）

夜降雨、朝も歇まず。出勤時止む。味噌、野口氏出勤の際持行けり。後刻巖来局、白酒持参、味噌と共に可なり重くなる。是永氏に63銭に昇給発令す。永江氏切手請求、一時販局。雨、朝歇みたる儘、青空も見ゆ。小倉にて小学生就学旅行団あり。混雑の為、立ちん坊多し。幾分遅れて到着。南新町より徒歩。此日中津局長村上氏より電話、福岡芹田庶務課長より、今日帰福するかと尋ね来る。販る由通告す。三時より防犯講演会に警察に出席方、中津局長より通知ありたるも欠席。真の郷も先生不在の由にて休会となれる旨にて行かず。夜、理髪す。

昭和14年3月5日（日）

朝一時快晴、九時頃より曇り。久子休み、一家西公園に弁当持参、隣家の娘さんと赴く手筈なりしやなるが、天候思わしからず、止めにしたり。十時半岸田氏来らる。診療所裏の地面に購買組合、建物を建設の計画なる由。借すことには承諾せり。一時間にて退出。三時頃より降雨。久子は友達と太宰府行き、雨に逢ふて四時過ぎ販る。人出頗る多かりし由、鰯求め来る。

昭和14年3月6日（月）

一時霽れ間を見せたるも、午後より降雨。夜に入るも歇まず。昌江と中尾氏に手紙書きたるも、発送の様なかりし。納税報告、福岡市役所より唐津城内宛、再び当地に回送のもの到着。二円送金方申越しあり。昌江への手紙には、新開町の土地を逓信省に貸与の件、及び自分の子供の不良は親たる自分の反省を要すること、一例とし

て二郎の問題を掲げ、自我を没却するモラロジーの鉄則から、誰の意見も聞かざりし余の「我」を滅却して、自ら進んで大原を迎えたこと等より、今日彼等の余に対する態度を述べて警告せり。

昭和14年3月7日（火）

朝曇り、次第に快晴。下帯洗ふ。午後より曇り初む。餅三回程頂く、没有。辞令三枚書く。此朝五時半、昨手紙投函。猶細雨。ワイシャツ等洗濯して貰ふ。歯ブラシ35づつ二本、ズボン火焼け修理代50澄子に払ふ。二郎より第九回貯債四枚送付越し、猶納豆送付せる旨通知あり。

昭和14年3月8日（水）

朝、昨夜の残り素麺に一把追加、悉く平らげ尽くし、七時二十分発。住吉社裏道泥濘、長靴泥まみれ。新聞求め6、糸島郡前原附近の小学生、別府阿蘇山三日行程修学旅行一団と同車。三時、守谷氏及び母堂臨局、退職の挨拶に来られネクタイ贈らる。何日も日曜日出勤に対し、今日は水曜日出局とて、準備の為か早く野口氏帰る。風呂沸く、晴天時々曇り。此日内親王様、御命名式、清宮尊子と仰（おお）出さる。

昭和14年3月9日（木）

朝晴れ、後曇り。二円納税組合に払込み、唐津城内より中津駅前へ転居通知。割合寒し。風呂なし。膝の辺、冷えて困る。鮪（まぐろ）馳走す。

昭和14年3月10日（金）

朝来降雨。陸軍記念日。朝税務署に行き、申告書を貰

ひ出局す。年末局手当3, 90来る。発令。雨歇まず。
夜?に至?り猶続く。

昭和14年3月11日（土）

夜来降雨、十時頃より曇り。午後0時40分、申告書税務署に持行く。六十七回貯債慰労金送付あり、分配す。殉（したが）?って一時二十分出発。汽車中新聞読む。定時帰宅、夕食後髯剃り、七時出発。細雨、同三十分青木氏と同時に着。誰も居らず。松尾氏見ゆ。行事済まし柳原先生宅に手伝へし。森氏、城戸氏等来着後、婦人四名も来会。先生より話あり。午後十一時半閉会。雨歇む。帰宅正十二時。夕刊を見て一時近く寢床。此夜の集會に栗原氏見えず。

昭和14年3月12日（日）

曇り、午後より雨模様、細雨あり。此日秀夫、南藥院に転居、荷物の運搬はりやカーにて、同僚二名来援。澄子三時頃まで、道子二三時間。貢氏より解消通知あり。返事出す、同時に中尾氏にも通告す。前年小谷温泉にて同宿の橋本氏より、本年も十五日より一週間入湯の見込みとて、余に案内状を寄こす。余返事「貴下の面白き咄を偲び御健康を庶幾する」旨葉書す。澄子棕櫚帚（ほうき）・タワシ15求め来る。久子五時過ぎ飯宅。午後七時半より一時間、全国青年雄弁大会ラジオにて放送審査、十時青年雄弁大会の結果を聴き、寢床。

昭和14年3月13日（月）

朝の間晴れ、次第に曇り、時々陽の射すこともあり。澄子秀夫方に行きし如し。四時前飯る。松木氏に手紙書く。

久子此の日も早出。冷氣、火鉢を廃すること能わず。二郎より送付の納豆10個、余のみ毎食頂き居る。食後必ず深呼吸二三十分間励行す。腹の調子、爾来よろし。十時過ぎ寢床。

昭和14年3月14日（火）

霽れ初めたる如く、空一面薄雲にて蔽はる。朝の間日向ぼっこす。此の朝冷氣甚だし。火鉢の火が消えた為、全身冷え手も凍えぬ。朝六時、松木氏の手紙投函に走りて往復す。猶温まるに至らず。今少し長距離なればよかりし。日中は余程暖かになる。外出せんと思ひしも止めたり。剃刀磨き、夕食後髯剃る。澄子にも手伝ふて貰ふ。愈々明朝出発せんとす。

昭和14年3月15日（水）

快晴、午前七時三十五分発。永江氏耶馬溪倶楽部に開催の部会に出席せる由。余代わって出席、昼飯前飯局。保険解約失効数、過剩徴収金50。一月分一類事故三件以上徴収金30、及び本月分研究会費100支払ふ。守谷氏共済組合脱退一時金56, 120決定通知あり。此日市内商店休業、門戸閉鎖の向き多し。巖振替払込みに窓口に見ゆ。風呂沸く、入浴二度。

昭和14年3月16日（木）

晴なるも時々曇り。朝守谷氏臨局、窓口から挨拶す。他家に居り帰宅せずと謂ふ。昨発送の共済組合脱退金決定通知書、未だ接手せず。風強く気温低下、冷ゆ。入浴、生気づく。

昭和14年3月17日（金）

夜半風強く、風呂場側の扉ばたばた音立て騒々敷きに、誰か起きて閉めたるらし、間もなく音歇みたり。朝快晴なりしも、次第に曇り。陽の射すこともあり。永江氏切手請求。冷氣強し。此日豊田校前より拾得（しゅうとく）せしとて、児童の其の母堂と来局。本日中津局振出小為替3,50証書、受領証添付の俣提出。仍って中津局に照会、注意を促し置き飯宅。午前中蛸瀬（かきぜ）、及び栄町相前後して出火、栄町は局舎の真向かいとて頗る懸念されしも、消防へ通知方早かりしと。蛸瀬より戻りしばかりの折とて、消防士の駆付け早く、為に大事に至らず消火せりとのこと。余の耳に入れりしは午後四時過ぎなりしも、急ぎ見舞いに栄町局に至る。入口に近く小野氏、子供を抱きて立ち居れり。見舞いの辞？を述べて飯局。風呂なし。此日概して風強く砂塵を捲き、火災あれば瞬時に延焼を免れざる気配なりしも、此程度にて消火せれば幸運なりし。風呂此の日休み、風は終日風がず。冷氣も働然たり。斯かる際、電気炬燵あるは嬉し。

昭和14年3月18日（土）

晴天なるも風依然強し、冷氣も不退。次第に曇り。中尾氏より書留到着。貢今日出発、特急にて明朝十時十八分博多着と。仰々しく書留とする迄に及ばなかったと思ふ。畢竟関心の歡喜抑ゆべからざるものありしなるべし、成功の誇りも手伝ったものか、遺（さすが）にそこに至れば、女性の本能とも申す欠陥が顕はれて居る様に見ゆ。小為替証書紛失本人受領方申出あり。受領証を徴し交付す。中津局に申出でたる為、同局より当局に来らせしものなるべし。十一時小野栄町局長臨局。昨日見舞いの

返礼と見えたり。御茶を出して二十分間計り咄して販る。余定時出発、博多駅前にて電車切符を求め五時販宅すれば、ミワ氏よりの電報を示して、余の判断に任す。余面喰らう。道子病気の為、来るに及ばず、仔細手紙と書送りしものらしく、ミワ氏東京駅に行きたる時?は既に発車後なりし。その電報らし。南新町下車と同時にバス箕島局に向けて発車、大急ぎにて驀進したるに、横よりタクシー飛び出し、夫れに躓き仆る。左手甲擦り剥きたる外、左股部打撲したるらし。寔（まこと）に不体裁を極めたり。併し轢かれたらば生命にも拘わるべかりしと思へば、神に感謝せざるを得ず。夕食後髯剃り、六時四十分頃より柳原先生かかり出発す。七時三十分到着。島井氏夫人と吉椿氏のみ来合わせあり。芳夫氏の仲、聞き質す。無論纏まりたる由を聞き、安神せり。栗原氏も見ゆ。今日は例になき僅少なりし。先生の朝日天声人語の武藤貞一氏の論評を読み感想を述べらる。栗原氏の長兄が基督教に帰依し、親と幼い弟を棄て伝導に従事せし意味が「棄恩入無為哉」は大義親を滅すに相当するを思う時、今日までの恨みを蟬脱（せんだつ）して、寧ろ自分が一燈園に帰依せし理由も、亡兄の導引と思われて一入感謝に堪えずと云ふ。更に媒介者として幾秤りか出費に対し成立せしめねば回収不能なるを思ひ、知恵を貸し呉れとの依頼は苦しかりし。販宅十二時過ぐ。

昭和14年3月19日（日）

晴れ、時々曇り。十時道子と出発、バス及び電車に乗り十分剰す。十八分は急行なり、遂に見えず。此の前峰氏の場合にも、此に類することあり。続いて十一時の普通列車来る。果たして貢氏見ゆ。道（さすが）に道子逸早

く見付く。貢氏も御愛嬌に富まず、何処となく闇き影が密み居るを認む。曩に野口を批難したるも、男性と雖も明朗たらんことを余は要望す。正午に近き為め道子に任せ、余は帰宅す。林檎15、五つ求めたり。貢氏と駅にて挨拶する頃、曇混じりの雨降り、忽ち歇む。午後四時頃同氏等帰宅。余に「道子さんとの交情を復活、結婚することに意思の疎通を遂げたり、御承諾を乞ふとの意味なりし」。爰に於いて余は左の二件に対し回答を求む。即ち一、美和氏の通知によれば、貴方が道子さんを貰って上げなければ、自分も嫁けぬとあった、其の点如何。余は撃肘を受けて決意を左右さるるとせば、甚だ頼りなきを認むと謂へば、自分は断じて他人の指図により決心したるに非ずと主張さる。然らば二、一ヶ年間交際して今に至りて破断出来ぬと云ふ、其の点如何。何と謂はれたるか手紙の内容は知らぬが、自分の心持ちより出でたるものにて、他人の意思を忖度する必要なしと云ふ。仍って余は、最悪の場合に於いても責任を採るとの信念を以て終始すべしと、誓言し得るかと質し、勿論其の決意ありとのことに付き、余は承諾せり。夕食前風呂に行きし様なり。一緒に夕食を済ます。鉾石受信機与ふ。

昭和14年3月20日（月）

晴れ、十時道子貢氏を案内し外出。此の間に余新聞を見、みわ氏に手紙を書く。午後五時過ぎ帰宅。久子の友達、山田さん飯塚より来訪、生憎遅飯りとして其の旨通知したるらし。夕飯も途中にて済まし、切符も求めて来たりと云ふ。九時頃風呂に案内。余九時三十分頃寢床。終日好天気、それでも海岸は寒かりしと謂はる。朝の間曇り、午後より快晴となる。気温上昇。

昭和14年3月21日（火）

晴れ、午前九時二十三分前出発、バスに乗らず徒歩にて南新町に出て電車に乗る。九軌にて松の緑1、30求め、土産に遣る。余は入場券を求めず新聞を買ふて遣る。九時十七分発車、見送りて道子と一緒に玉屋の不用品展示会に臨む。混雑を極む。着物多し、鉄製寝台20円売切れあり。県庁前より電車に乗り私設市場に至り、団子及び澄子の為に鯰36求め、団子は萩の餅も合わせ20、道子はバス、余は徒歩にて販宅。午後より蒲団を乾す。次第に曇り来る。道子等隣家の嬢さんと写真撮る。

昭和14年3月22日（水）

夜半より降雨、朝に至るも歇まず。久子証書請求書、秀夫より貰い来る。澄子二階に来たり、結婚成立を吹聴するなど云ふ。其の理由を質す。「判然せぬ」と云ふ。余否定す。昨玉屋より、朱子足袋86求む、一番上等の質と云ふ。天気は四時頃より次第に晴れ、処々碧空を望む。此の夜、湯暖房は不必要に熱かりし。

昭和14年3月23日（木）

快晴、十時頃より兩人外出。余独り留守居、早田氏来訪。鉱石受信機上等の品、発送せる旨通知あり。交換せん意思らし。既に前日東京の友人に送付せし旨話し、折角取寄せらるるなら別に頂戴置くべき旨を述べたり。其の儘立去らる。此の日所得申告書の配布あり。作成して澄子に提出せしむ。今日より火鉢を廃す。猶家の中は幾らか寒し。四時半出先より販宅。久子早販り。ラジオ仙台より会津大津絵及び玄女節あり、床の中にて聞く。白虎

隊の歌詞なり、内山某と云ふ。十時寢床。此の日は終日晴天持続す。

昭和14年3月24日（金）

曇り、時々陽が射す程度、風寒し。午前中城戸氏来宅。

「まこと」三月号刷成り見本、局に提出方取計らわしむ。先生神戸に赴かる、弟氏手術に立会の為。経過良好。明日夕刻販宅の通知ありと、二郎より去る二月十九日撮影の写真送付越せり。モーニング着用し居る。西牟田氏より手紙あり。返事発送せり。入り陽輝く。

昭和14年3月25日（土）

朝曇り、次第に霽れ幾分寒し。火鉢を再び持出す。久子朝早出。道子澄子外出、買物に行く。序でに年金受領証用紙を貰ひ来たらし。午後一時四十分、簗島局にて年金受取る。四月一日より電報取扱い開始の掲示あり。今日まで電話のみ取扱いありし如し。柳町市場に至り玄米茶百匁30求め、松屋に至り便箋二冊25、和封筒40枚20、及び糊5、計50銭を求め、再び市場にて鮪10を求め帰宅。朝貢氏より安着の書面あり。下関より定時発車より半時間早く臨時列車発車、夫れに乗り、一時間近く予定より早着、直に服務せし由。澄子も先刻外出の際、鮪を求め来たりし由にて、油濃くて消化不良にせし嫌いあり。近海鰯大漁、頗る廉（やす）し。併し今の鰯は美味ならずとて、澄子故（ことさ）らに求めず。久子大学病院に再び浜口氏を見舞い、販宅遅くなる。

昭和14年3月26日（日）

快晴、室内は寒し。昨日より火鉢に取りし火は、今朝猶

消えず。更に加炭。澄子に一円返戻し、別に林檎を買はしむ。八重桜大分蕾膨らむ、桃の花より早く咲くかも知れぬ。午後一時四十分剃刀磨く。澄子に理髪せしむ。林檎三つ15、澄子に求めしむ。夜一、明朝一。午後より幾分薄曇りとなる。

昭和14年3月27日（月）

曇り、雨模様。七時二十五分出発、徒歩。新聞紙4銭、小倉より戦没者霊柩車連結、各駅国防婦人会員送迎す。午後多少降雨あり。局隣家の肥満した伯母さん来たり、門司局軍事郵便課に居る親戚の息子の資格、将来の保証等に就き、色々余に質す。給料交付。巖にも例により遣る。中尾氏去る土曜日着にて、手紙本日受取る。風呂沸く。

昭和14年3月28日（火）

九時出局。中津局行き、上原氏に貸付金整理方に付き質す。森下薬店よりパラチクロールペンゾール殺虫剤、一瓶1,30を求む。風呂なし、冷氣可なり応ふ。朝曇り、後霽れ。

昭和14年3月29日（水）

朝快晴。保険2,10納付。中殿宝珠山光子方池永国子を訪ね、或るうどん屋にて判明、その子供の案内にて其の家に至り、光子氏に問ふ。国子氏不在、郷里西馬城に帰れりと。午後薄曇り。

昭和14年3月30日（木）

晴れ、暖かなり。池永国子来局。夢に通帳来着の告げ

あり。宝珠山に立寄らず来ると云ふ。事務室に請じて話す。即時払いに対しても、余世話して特別に扱ふて遣る保険に入れたり。消耗品調査。巖早朝釣りに出発、鮒のテン普拉を保証す。余獲物を得ずして議することの早計を諷す。果たして僅かに数尾を得たるに過ぎず。朝吹氏も同伴せりと云ふ。風呂沸き、電気炬燵を廃す。

昭和14年3月31日（金）

曇り、午後より晴れ。中津日報発行人名義変更、山本氏となる。其の認可書携行来局、永江氏手相観て貰ふ。是永氏も亦観て貰ふ。風呂なし。